グラミン銀行創立の背景,組織の運営方針及び成功の秘訣と 今後の検討課題

Background of Grameen Bank, Management Policy of the Organization, Secrets of its Success and Future Issues to Discussed

ジョマダル ナシル JAMADAR Naseer

〈概 要〉

本研究の目的は、グラミン銀行創立の背景、組織の運営方針及び成功の秘訣と今後 の検討課題について詳細に分析した結果を基に今後の検討課題を明らかにして必要な 提言・提案を行う。グラミン銀行のマイクロクレジット・プログラムが草の根レベル において事業を通してバングラデシュの貧困層の生活向上と経済的自立を促すための 役割を検証することにある。グラミン銀行が人間の尊厳を守り、人権の尊重に寄与し ている為、最貧困層の雇用、収入、自尊心をもたらすため無担保でマイクロクレジッ トを提供している。マイクロクレジット・プログラムのアプローチではバングラデシュ や他の開発途上国の貧困者の社会経済状況は目に見えて変化している。さらに,本論 では、グラミン銀行から最貧困層の方々が無担保で小規模融資を受けて事業を起こし て直接関わったマイクロクレジットの借り手の成功実績と抱えている諸問題について 多方面から分析を行う。極度に貧困な状況にある人々は彼ら自身の生活改善や自立の 為に自発性は持っているが、お金を借りる為に担保になるものを持っていないので金 融機関にアクセスすることが難しかった。グラミン銀行はそのように貧困層に無担保 で小規模融資を提供した資金を元手に、貧しい人々はその資金を元手に自助努力を積 み重ねて生活向上と自立に向かっている。最貧困層が収入を得るための多面的な活動 を行なうことで社会的立場や経済状況の改善されることが期待される。小規模融資を 受けた借り手の成功と失敗例を考察する傍ら今後の課題について注目していきたい。

1. グラミン銀行の創立の背景ときっかけ

グラミン銀行総裁で創立者でもあるユヌス氏は米国で博士号を取得後、1974年、バングラデシュに帰国してチッタゴン大学にて経済学の教授として教鞭を執るようになった。教室で学生に講義をしている時に経済学に関する多くの問題を黒板で理論的に解決できても、教室から一歩外に出ると通りには絶対的貧困に苦しんでいる人々が溢れている状況があった。そして、難しい経済問題を黒板で解決している経済学が実際の社会にあまり役に立ってない事に疑問を持つようになり、ゼミの学生と一緒に大学近辺にあるジョブラ村で貧困の主な要因について把握するために現場での研究調査を始めた。同村の女性達は竹細工で腰掛椅子を作っていた。しかし、ジョブラ村の女性達は仲買人から材料をもらって一日中、竹細工の作業をしていても作業代として自分の手元に残るお金はわずかであった。研究調査の結果で分かってきたのは、草の根レベルで極度に貧困な状況にある人々が、彼ら自身の生活改善や自立の為に自発性は持っているが、お金を借りる為に担保になるものを持たないので金融機関にはなかなかアクセス出来なかったため親子孫の世代に渡って貧困の悪循環から抜け出せず最貧困状況の中で生活してきた。自分達で竹細工の材料さえ購入できれば腰掛椅子の売り上げ全額が自分のものになり、収入を何倍にも増やすことができる。そこで、ユヌス氏はこれらの女性達に注目して自身のポケットにあったわずか27米ドルを42人の女性達の竹細工の材料購入代として貸し始めた。これが今日のグラミン銀行の始まりである。しかし、最貧困層の為に農村(グラミン)銀行を創立にたどり着くまで長年、苦難の日々が続いていた。ユヌス氏は言う。"私は貧困と関わりを持ったのは政策立案者としてではなければ研究者としてでもない。私の回りにあった貧困の存



写真提供GB本部:ユヌス氏の腰掛椅子現場訪問

在が無視できなかったからである。経済学の授業では素晴らしい理論、黒板の上ではどんな難しい問題を簡単に解決できても、それらは現実にバングラデシュの飢餓、貧困問題に何の解決にもならなかった。教室で教える経済学の優れた理論ではなく、例え一人の困っている人を手助けできればよいと思って直ちに行動を起こすことを考えてこの活動を始めた。"

ジョブラ村の女性達がユヌス氏から借りたお金で竹細工を購入して腰掛椅子を作って今度は仲買人ではなく直接消費者に販売して収入を倍増したのを見て、隣村はじめ同地域から多くの女性達がユヌス氏お金を借りるために殺到するようになった。しかし、一大学教員にとってか数多く貧困層にお金を貸すには限界がある。そこで、同氏が大学内にあった政府系銀行に貧しい女性達にお金を借りに行ったが、銀行は担保を持たない貧困層にお金貸してくれなかた。他銀行に行っても同様な対応だった。そこで、ユヌス氏は貧しい人達に自立に向かって自信と希望を与えるためにプロジェクトを立ちあげた。本プロジェクトの目的はお金を貸すだけではなく最貧困層の人々に自立へ希望を与えるマイクロクレジット(小規模融資)の考え方だった。土地を持たない人々が適切な期間と状況の中無担保で資金が運用できるようになれば、貧しい人々が自助努力を積み重ねて、とてつもなく大きな発展が遂げられるだろうとユヌス氏は考えた、その結果、1976年、この計画は「農村開発研究プロジェクト」と名づけられ、下記のような目的とともに形となっていき、1983年にグラミン銀行の創立になった。下記の様に農村開発研究プロジェクトから今のグラミン銀行の形となった。



写真提供GB本部:小規模資金借り手の村へユヌス氏の訪問

- ① 1976年、農村開発研究プロジェクトはバングラデシュのジョブラ村でチッタゴン大学のアクションリサーチプロジェクトとして開始。当時、グラミン銀行創立者のムハマド・ユヌス教授はチッタゴン大学で経済学の教鞭を執っていた。
- ② 1979年、バングラデシュ中央銀行から融資を受けてのパイロットプロジェクトの開始。
- ③ 1983年10月、グラミン銀行は特別法令により独立銀行として設立。

2. グラミン銀行とは?

「グラミン」はベンガル語で「農村」という意味である。グラミン銀行の全ての活動が農村を中心に行われていることは「農村バンク=グラミンバンク」という名前にも表れている。今では世界的にも「グラミンバンク=グラミン銀行」と呼ばれるようになった。グラミン銀行のマイクロクレジット(小規模融資)の対象者は土地を持ってないか、殆んど持ってない村人達である。彼らは貸付金を受ける為に5人組を形成する。グループメンバー(ボロワー)は同じような教育、経済的状況、社会的背景を持たなければならない。家族が0.5エーカー以下の耕作地しか持たない人、あるいは家族が1エーカーの土地を持っていて、それがその地区で中程度の価値を持っていても、実際の市場価値に満たないという人であれば誰でも収入向上・営利活動をする為にグラミン銀行からマイクロクレジットを受ける資格がある。

Box 1: わずか27ドルがグラミン銀行の始まり

ジョブラ村の女性達は仲買人から材料をもらって一日中、竹細工の作業をしていても作業代として自分の手元に残るお金はわずかであった。自分達が材料を購入できれば竹細工の売り上げ全額が自分のものになり、収入も何倍にも増える事になる。ユヌス氏はこれらの女性達に注目してポケットにあったわずか27ドルを42人の女性達の竹細工の材料購入代として貸し始めた。これがグラミン銀行の始まりである。グラミン銀行はお金を貸すだけではなく、女性達に労働の機会を提供している。どんなに貧しくても人には何らかの技能があり、それを資本化して事業を起こす「起業家精神」が必ずある、というのがユヌス氏の考え方である。

借り手はお金を借りる前にグラミン銀行の考え方、規則、手順について1~2週間のトレーニングを受けなければならない。そして、グループとして認められる為に口頭試験に合格しなければならない。新しいメンバーは予めにグラミン銀行の規則(16原則)や手順を理解し、自分の名前が書けるようになり、その誠実さや真剣さでグラミン銀行のスタッフを納得させなければならない。各グループはリーダーと補佐を選出する。参加を義務づけられた全てのメンバーを毎週の



写真提供GB本部:グラミン銀行の運営組織構造

ミーティングに参加させるようにするのが彼らの仕事である。同じ村で構成された6~8グループが集まったもの(30~40人で構成される)で村毎にセンターを構成する。グループリーダーの中から「センターチーフとチーフ補佐」が選ばれる。彼らは毎週センターミーティングを仕切り、貸付金の申し入れを伝え、メンバーの活動状況を把握して、グラミン銀行のワーカー(行員)の仕事を手伝っている。このセンターが村レベルでのグラミン銀行の活動のベースになっている。銀行のメンバーはセンターを通して金を借り、生活改善や自立の為に様々な収入向上活動を行う。2023年月現在、バングラデシュだけで約1000万に人の最貧困層が銀行を利用し、無担保でマイクロクレジットを受けている。バングラデシュ以外世界の40の国及び地域ではグラミン銀行モデルを実施している。アメリカでは2008年、日本でも担保を持たない為銀行から融資を受けられない方々向けに2018年から「グラミン日本」が設立された。グラミン銀行のワーカーは毎週お金を回収し、メンバーの経済活動や生活改善状況を把握する為に朝から晩まで自転車で村から村へと走り回っている。グラミン銀行の規則では行員全員が一日中村で活動する事になっている。勤務時間に行員が支店にいる場合、銀行の規則では働いていないと見なされることになっている。ただし、昼下がりに一度だけ借り手にお金を貸す為に支店に戻ることが許されている。

2.1 グラミン・マイクロクレジットを借りる条件

グラミン銀行から無担保でマイクロクレジットの借り手となる条件として、現住所に2年以上の生活居仕歴、同等の社会及び経済的状況にいる5人組グループを形成することがある。同じ家族から何名もグラミン銀行から小規模融資を借りることは可能であるが、親族関係は同じグループに入ることはできない。グループの一員として認められる為に面接に合格しなければならない。借り手になるためにグラミン銀行の規則(16原則)や手順を理解し、自分の名前が書けるようになり、その誠実さや真剣さでグラミン銀行のスタッフを納得させなければならない。一連のプロセスを全て終えてからグラミン銀行から無担保で融資が受けられることになる。同じ村で構成された6~8グループが集まったもの(30~40人で構成される)で村毎にセンターを構成する。グループリーダーの中から「センターチーフとチーフ補佐」が選ばれる。彼らは毎週センターミーティングを仕切り、貸付金の申し入れを伝え、借り手の活動状況を把握して、グラミン銀行の行員の仕事を手伝っている。このセンターが村レベルでのグラミン銀行の活動のベースとなっている。マイクロクレジットの借り手はセンターを通して銀行から金を借り、生活改善や自立の為に様々な収入向上活動を行なう。

銀行の借り手になるための一連のプロセス

- ① グループ形成
- ② グループ研修
- ③ グループ班長、副班長センター長を選ぶ
- ④ グループとして承認
- ⑤ ローン申し込みの準備
- ⑥ ローン貸出
- ⑦ ローン利用
- ⑧ ローン返済

2.2 グラミン銀行と一般銀行との違い

一般の銀行の場合、銀行はお金を持っている人に担保や保障人を通じてお金を貸す。そして、借り手が銀行に出向いて厳しい審査や手続きを踏まなければならない。一方、グラミン銀行はいかなる貧しい人でも金融機関からお金を借りる権利があると考えている。グラミン銀行の場合、一般の銀行にアクセスできない貧しい人々の尊厳を尊重した上で信頼して無担保でマイクロクレジットを提供している。さらに、グラミン銀行の株主になれるのはメンバーのみである。グラミン銀行は法的な手段を持たず、信頼関係の上で成り立っている貧しい人々ための銀行である。

Box 2: グラミン銀行のユニークなアプローチ

グラミン銀行の審査に合格してお金を借りた後、初めて大金を手にしたため緊張して行員にアドバイスを求めてくるメンバーがいる。そういう借り手に対してグラミン銀行総裁ユヌス氏の教えは一"私達はお金をたくさん持っているが、いいアイディアは持ってない。もし、私達がいいアイディアを持っていたら、貴方にお金を貸さないでこのお金でもっとお金を儲けているだろう"。 *世界銀行は貸すお金以上に口を出す、グラミン銀行は金を貸すが口は出さない。

3. グラミン・マイクロクレジットの理念

- ① グラミンクレジットを人間の権利として推進する。
- ② グラミンクレジットのミッションは貧しい家庭が貧困から脱出する為に手助けをする。対象は貧困層、特に貧しい 女性達である。
- ③ グラミンクレジットの明確な特徴は無担保で法的契約を持たない、銀行側と借り手の間の信頼の上に成り立つものであり、法的な手続きやシステムの上で成り立つものではない。
- ④ グラミンクレジットは貧しい人々に自営業で雇用を生み出す収入向上活動とハウジングローンを提供している。
- ⑤ グラミンクレジットは貧しい人達にクレジットを拒否してきた従来の銀行に挑戦的で独自の方式や方法論で運営している。その結果としてグラミンクレジットは従来の銀行の基本的な方法論を拒否している。
- ⑥ グラミンクレジットは戸口でサービスを提供する。グラミン銀行の基本方針は人々が銀行に行くのではなく銀行が 人々のところへ行くことである。
- ⑦ グラミンクレジットを受ける条件として借り手は借り手のグループに参加しなければならない。
- (8) グラミンクレジットは、以前のローンが返済済みであれば継続的に新しいローンを受けることが可能である。
- ⑨ グラミンクレジットではすべての貸付金は毎週. または2週間毎に返済される。
- ⑩ 借り手はグラミン銀行から同時に1つ以上のローンを受け取ることが出来る。

4. グラミン銀行はボロワーの貧困状況を下記の10項目を指標として評価している

毎年グラミン銀行の行員は彼らの仕事とメンバーの社会経済的な状況に改善があったかどうかを調べる。グラミン銀行はボロワーの貧困状況を評価する為に下記の10項目を指標として評価する。グラミン銀行のメンバーの家族が下記の基準を満たせば、そのメンバーは貧困から脱出することができると考えている。

- ① 家族が少なくとも1000ドルの価値のある家に住んでいるか、あるいはトタン屋根のある家に住み、家族全員分のベッドがあること。
- ② 家族全員に掘り抜き井戸から汲み上げたきれいな水や煮沸かみょうばんで消毒した水、錠剤やフィルターでヒ素を取り除いた水へのアクセスがあること。
- ③ 6歳以上の子ども全員が小学校に通っているか、小学校を卒業していること。
- ④ 借り手の毎週のローン返済額は2000タカ以上であること。
- ⑤ 家族全員が清潔なトイレを利用すること。
- ⑥ 日常生活で使う家族全員の冬物の衣類 (ショール, セーター, 毛布など) や蚊から身を守る為の蚊帳を不足なく持ち合わせていること。
- ⑦ 家族に何かあった時に使えるよう,野菜や果物などを栽培して副収入源を持つこと。
- ⑧ 借り手は年間通して平均2万タカの貯金を持つこと。
- ⑨ 年間を通して家族全員が問題なしに三度の食事を摂っていること。例えば、1年間、家族の者が空腹を経験していない。
- ⑩ 家族の者が病気になった時に医療機関のサービスを受けられると共に治療代を支払えること。

Box 3: グラミン銀行中毒!

一般的にアルコール中毒,麻薬中毒という言葉を耳にしたことあっても,恐らく銀行中毒という言葉を聞いたことはないだろう。グラミン銀行が創設して30年の月日が経過した。この間,グラミンクレジットを受けて失敗した借り手もいるが,成功したボロワーの数の方が圧倒的に多い。それらの成功者に「生活の改善と収入向上ができて自立しているのに,なぜ今もグラミンクレジットを受けているの?」と訊くと,「グラミン銀行から融資を受けなくても十分にやっていけるが,毎週のセンターミーティングに(毎週の返済日)参加しないと生活のリズムがおかしくなってくるから,必要なくても毎週のセンターミーティングに出る為融資を受けている。グラミン銀行中毒だよ!」

5. グラミン銀行のローン種類と成功の秘訣

- ① グラミン銀行の規則(16原則)やシステムを借り手が厳粛に守っている。
- ② 5人で一つのグループと毎週の返済が 小規模融資に機能的に役立っている。
- ③ 借り手(メンバー)のニーズと状況を 把握してマイクロクレジットを貸し付 けている。
- ④ グラミン銀行は行員より借り手の方が 融資の使い道を知っているから口を出 さない。
- ⑤ 貸付後のメンバーに対する行員の透明 性と親身なモニターリングが機能して いる。

グラミン銀行の規則(16原則)を借り手が厳粛に守っている。グラミン銀行の社会開

グラミン銀行の利率					
ローン	貯蓄				
● 事業ローン:固定金利 10% (20%定率法)	● 貯蓄:8.5%				
● 住宅ローン: 8%	● 定期預金: 8.75-9.50%				
● 高等教育ローン	• 7年後に倍額: 10.40%				
在学中-0% 卒業後-5% 物乞いメンバー: 0%	• 定期預金(5年物) 月払い:10.20%				
●センター・ハウスの建設:0%	• グラミン年金貯蓄 (5年物): 10%				
	● グラミン年金貯蓄 (10年物): 12%				

発教育の一環として16原則を導入している。毎週センターでの返済の際、銀行システムを借り手に細かく指導している。例えば、毎週の返済時期に返済しなければ、次の週になった場合、返済額も利率も増えていくので借り手が融資を受けている時の返済スケジュールを厳粛に守っている。グラミン銀行の社会開発教育の一環として16原則を導入している。毎週センターでの返済の際、銀行システムを借り手に細かく指導している。例えば、毎週の返済時期に返済しなければ、次の週になった場合、返済額も利率も増えていくので借り手が融資を受けている時の返済スケジュールを厳粛に守っている。

5.1 グラミン銀行の16の決意

①私たちは、どのような人生を歩んだと しても、グラミン銀行 の4つの原則である、 規律、団結、勇気、 勤勉を守ります。	②私たちは、家族に 繁栄をもたらします。	③私たちは、あばら家に住みません。 できるだけ早く改築するか、新築できる よう、仕事に励みます。	④私たちは、1年 中野菜をつくり、 たくさん食べます。 あまればそれを 売ります。	⑤私たちは、苗木を植える季節には、 できるだけ多く植えます。
®私たちは、家族計画をし、出費を最小限に抑え健康に注意します。	の私たちは、子供に 教育を受けさせます。 子供が教育費を稼 げるようにします。	®私たちは、常に 子供の身体を清潔 に保ち、家屋や周囲 の環境の美化に務 めます。	③私たちは、簡易 トイレを設置し、 使います。	⑩私たちは、水を飲む前に沸騰させるか、ミョウバンで浄化します。 砒素を取り除くために、フィルターを使います
○私たちは、息子の結婚で持参金(ダウリ)を要求せず、娘の結婚でも持参金を出しません。児童婚はさせません。	②私たちは、誰にも 不正義を押しつけず、 誰からも不正義を押 しつけられることを 許しません	◎私たちは、より高い収入を得るために、 共同で大きな投資を 行います。	個私たちは、常に 助け合います。 誰かが困っている なら、みなで助け ます。	®私たちは、どこか のセンターが規律を 破っているとわかれ ば、みなで駆けつけ、 規律の回復の手助 けをします。
®私たちは、全ての 社会活動に、みなで 参加します。	バーの代表100人 するために、そして	ークショップにおいて、 が自分たちの生活を 、最終的には貧困から 6 からなる決意 」を定め	良く ら脱 かた。	を 改善する の16の決意 ミン銀行を知っていますか』 3著/東洋経済新報社刊)

① グラミン銀行 [16の決意]

▶私たちはグラミン銀行の4つの原則に従い、私たち の人生のあらゆる歩みの中でこれを推進する:規 ≉ 団結 勇気 そして勤勉



② & ③ グラミン銀行「16の決意」 ◆ 繁栄は家族のために。 ◆ 私たちは荒廃した家には住まない。まず第一に家を修繕し、新しい家を作るために



⑤ グラミン銀行 [16の決意]

◆私たちは耕作期にはなるべく多くの種をまく。



⑥ グラミン銀行「16の決意」

◆ 私たちは家族を大きくしすぎないように計画する。 支出をおさえ、健康に気を遣う。



⑦ グラミン銀行「16の決意」

◆ 私たちは子供たちを教育し、子供たちが自分の教育費を払えるよう保証する。



⑧ & ⑨ グラミン銀行 [16の決意]

◆私たちはつねに子供と周囲の環境を清潔に保つ。 ◆私たちは穴を掘ったトイレ (pit-latrine) をつくり、使



⑩ グラミン銀行「16の決意」

◆ 私たちは筒井戸から水を飲む。もし井戸がない場合は、水を沸かすかミョウバンを使う。



① グラミン銀行「16の決意」

◆ 私たちは息子の結婚式で持参金をもらわず、娘の 結婚式にも持参金を持っていかない。私たちのグ ループは持参金の呪いから距離をおく。私たちは 幼年での婚姻をさせない。



② グラミン銀行「16の決意」

◆ 私たちは不正なことをせず、また他人に不正なこと もさせない。



③ グラミン銀行「16の決意」

◆私たちは共同でより大きな投資を受けることにより、 より多くの収入を受ける。



④ 私たちはつねにお互いに助け合えるよう用意する。もし誰かに困難があれば、私たちは全員で彼または彼女を助ける。



15 & 16 グラミン銀行「16の決意」

- ◆もしどこかのグループが破綻しそうだと わかったときは、私たちはそこへいって 回復を手助けする。
- ◆私たちはすべての社会活動に共同で加 わる。

注意:本論で使用写真と図表はグラミン銀行本部の研究と開発部から提供。

5.2 グラミン銀行自身の経済的自立のために

グラミン銀行から融資を受けている貧困層が自立して貧困から脱出することを目指しているとともに、グラミン銀行自身も経済的自立のことを意識して行動するようになった。1995年以降、グラミン銀行は運営資金を国内外の国際機関、国内外の金融機関などに要請しないことを決定した。1995年以降、グラミン銀行は財源の為に何処にも資金を要請していない。この間、グラミン銀行は借り手や一般の人々から貯金を預かることにより資金面で巨大銀行となった。最貧困層にマイクロクレジットを提供することにより自助努力で生活改善や収入向上のモチィベーションとなっていると共に、銀行自身の自立の為に次々に新たな企業やNPO(特定非営利活動法人)を起こしている。これらの企業とNPOはグラミンファミリー(Grameen Family)と呼ばれている。その中でも1996年、グラミン銀行の別会社が日本の丸紅とノルウェーのTelenorと一緒に設立した南アジアで代表的な携帯電話会社「グラミンフォン」今ではバングラデシュで約1000万の加入者を持っている。

5.3 ムハマド・ユヌスの新たな挑戦:貧困を博物館へ

1960年代の「トリックル・ダウン(下の方に浸透していく)」アプローチと1970年代の半ば頃から,アメリカや世界銀行などによって貧困層の生活改善を直接のターゲットとした「ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)」のアプローチが開発途上国の貧困削減に大きな役割を果たせたとは言えない。1980年代,ユヌス氏がバングラデシュで設立したグラミン銀行のマイクロクレジットアプローチは現在,バングラデシュだけではなく,アジア,アフリカ,ラテンアメリカなどの多くの国々で貧困削減のツールとして浸透し,世界中から注目されるようになった。1980年代初めグラミン銀行が設立当時のメンバーのターゲット目標は200万人だったが,現在バングラデシュだけで約1000万人に近い借り手がいる。銀行の16原則のお陰で借り手の子供が皆学校に通えるようになった。優秀な子ども達はグラミン銀行から教育ローンを受けて医者,弁護士やエンジニアになっている人も少なくない。グラミン銀行は以前から農村においてIT教育も推進している。2006年,ムハマド・ユヌス氏はオスロでのノーベル平和賞の受賞式でも今抱いている夢について語っている。今では貧困なき世界を目指してきたユヌス氏は次世代に日常生活では貧困を見られないようにしたい。将来,次世代がかつって先祖が苦しんでいた貧困の状況を彼らは博物館に行って勉強をすることにしたい。ユヌス氏はそれをただの夢物語ではなく、皆がそれに向かって努力すれば実現可能だと語っている。

5.4 携帯電話を通じて貧困削減

携帯電話が近頃私達の日常生活では必需品となった。バングラデシュではグラミン銀行は携帯電話を貧困削減の手段として活用している。グラミン銀行が起こしたビジネスエンタープライズの中で携帯電話会社(Grameen Phone)が最も注目を浴びている。Grameen Phone はわずか10年間で1000万人以上の加入者にサービスを提供し、南アジアで最大の携帯電話会社となった。そして、グラミン銀行の100万人のボロワーが固定電話の普及していない農村部でTelephone-Ladiesとしてビジネスを展開し、高収入を得て貧困から完全に脱出するようになった人も少なくない。Telephone-Ladiesの中に月収が大卒の初任給料より多い人も最近では珍しいことではない。数年前早稲田大学での講演後ある教育研究者がユヌス氏に次のような質問した。"読み書きすら出来ない農村女性に最新技術を持たせてどうやって商売が成り立つのですか?"この質問対してユヌス氏の答えは一"これはそれ程難しい問題ではない。電話をかける為に10桁の数字を覚える必要があるが、それを農村女性に教えればTelephone-Ladiesの事業が成り立つはず。"

6. グラミン銀行と女性のエンパワーメント

長い歴史や伝統の中で、農村社会では女性は家の中(子育て、家事)、男は外で(生活費を稼ぐ)働くことが主流だった。そのため女性の社会的、政治的、経済的、文化的状況などを変えていくことは非常に困難であった。そのような状況の中、1983年にグラミン銀行が村にやってきた。初期の頃は家族をはじめ、村社会も女性と銀行との関わりに反対していた。しかし、グラミン銀行のモチベーションにより村の女性がマイクロクレジットに興味を示し、やがて家族の賛同を得て積極的に関わるようになった。貧しい人々が5人でひとつのグループを作り、無担保でお金を借りるというシステムが採用されている。銀行のローンは毎週少しずつ返すことになっているが、返済率は98%と高い返済率を維持している。全体の借り手のうち97%以上は女性である。小規模融資を受けることで自分たちが昔から持っているインディジーナス・ノウレッジ(代々親から子、子から孫へと受け継がれている知恵と知識)を活かしてアヒル、ニワトリ、ヤギ、牛などを

育てたり、野菜の栽培をしたり、村で小さな店を開くなどして現金収入が得られるようになった。これにより、貧困削減と同時に家族の中で自分達の地位を確立できるようになった。グラミン銀行から無担保でマイクロクレジットを受けることにより、女性達が経済的に自立し、さまざまな社会や政治活動にも積極的に参加することによって自分達が男性に対等な立場で意志表示で得られるようにになった。このようなことは今まで開発途上国の農村で暮らす女性の生活の中で考えられないことであった。グラミン銀行は女性と開発、ジェンダーと開発という理論やアプローチより実践的に女性のエンパワーメントを通じて静かな革命を起こしているともいえる。

Box 4:静かな革命

一般的にイスラム社会(バングラデシュ)では女性名義の財産がないことが多い。グラミン銀行のハウジングローンの規定では、借り手本人の名義に最低20㎡メートルの土地がない場合はグラミン銀行からローンを受けることができない。初期の頃マイクロクレジットへの参加に反対していた夫達は、今では親から貰った大事な土地を妻名義に変更することを拒まない様になった。これはイスラム社会のバングラデシュでは革命的なことである。村レベルでは政治的な面においても静かな革命が起きている。グラミン銀行のメンバーが直接選挙によって村長になった数は毎年少しずつ増えている。これらのメンバーが最近の総選挙でも大きな役割を果たすようになっている。特に、グラミン銀行のメンバーが活発に活動している地域ではジャマティ・イスラミ党(イスラム原理主義)の国会議席が毎年減っていることが明らかになっている。

7. 乞食(Beggars) がグラミン銀行のメンバーになった

グラミン銀行は世界的に注目されていると同時に国内において共産党、イスラム原理主義や一部の学者・知識人などから様々な批判を受けている。その都度それぞれの批判に対してユヌス氏始めグラミン銀行の関係者がグラミン銀行の理念と思想に元づいて説明してきた。時にはチャレンジを受けたこともある。共産党は貧困層が銀行から恩恵を受けて最低限の生活ができるようになると革命を起こしにくい。イスラム原理主義の視点で物を考える人達は、グラミン銀行が活発に活動をすればするほど女性のエンパワーメントがこれ以上に進むと彼らにとって面白くないか都合が悪いようである。もちろん、これらの批判に対してグラミン銀行側が一々反論することは時間の無駄と思って無視したこともある。数年前から新たに出てきたのはグラミン銀行が貧者の銀行というが、絶対的貧困の状況に置かれている人々のためには何もしてないのではないかという批判である。グラミン銀行がこの批判に対して挑戦をすることにした。バングラデシュでは一番貧しいと言われる人達は乞食をして生活している人達である。グラミン銀行はそれらの人達を対象に小規模融資提供をするようになった。乞食を対象としたグラミン銀行のプログラムで融資受けているメンバーは10数万人を超えている。

このプログラムの特徴は下記の通りである。

- ① 借り手はグラミン銀行の規則(16原則)やシステムの対象になってない(守る義務はない)。
- ② 全ての融資は無利子である。返済にも期限は決めてない、本人が返済したい時でいい。
- ③ 乞食メンバーは自己負担なしで生命保険とローン保険に入っている。
- ④ グラミン銀行のグループやセンターに乞食メンバーのパトロンになるように推薦している。
- ⑤ 全てのメンバーにグラミンロゴの入っているバッチを持たせている,このバッチが彼をグラミンのメンバーである ことを証明する。
- ⑥ グラミン銀行側は乞食を辞めることについて彼らになにも言わない, 副収入を得れることは進めている。

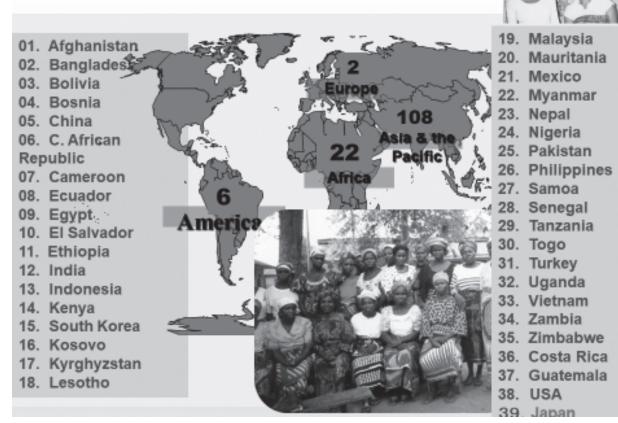
8. グラミン銀行モデルはバングラデシュから世界へ

一時期最貧困と言われた国バングラデシュで産声あげた「グラミン銀行モデル」は今アメリカと日本などの国でも機能するようになった。今はバングラデシュを始めとする世界中の多くの国々ではマイクロクレジット'モデル'を取り込むことにより、人間として尊厳をもって毎日の生活の中で最低限必要とされるもの(衣食住や基礎教育・保健医療など)にアクセスできるようになった。1997年のアメリカ・ワシントンで開催されたマイクロクレジット・サミットでユヌス氏が'マイクロクレジットは人権の1つである'ことを主張した。グラミン銀行のマイクロクレジット・プログラムを通じて無担保で最貧困層に融資を提供してそれを証明してきた。そして、国内において、グラミン銀行の借り手の中で成功を収めた借り手は沢山いる。これらの借り手に対して銀行は農村での雇用と経済発展のためマイクロエンタープライズを進めてきた。すでに、様々な好ましい理由により、多くの借り手が急速にビジネスへと進んでいる。その理由とは、市場に近

グラミン銀行は世界的規模で事業を展開







い、家族に事業の経験豊富な男性がいる等である。急速にビジネスへと進む借り手のために、グラミン銀行はより融資額の大きい「マイクロエンタープライズ・ローン」を提供している。

9. グラミン銀行の諸問題,解決への取り組みと今後の検討課題

数年前バングラデシュ政府が国家公務員の給与を倍に上げた。グラミン銀行職員の待遇も国家公務員に合わせていたの で早急に月給とボーナスなどが倍上した。そのことにより経済的に多少は苦しくなった。そこで対策として新任採用を減 らしてIT化を強化して人材費の面でかなり節約できるようになった。前述通りグラミン銀行が世界に例が見られない程 の返済率98%今も維持している。しかし、バングラデシュは地理的に自然災害が多い国である。銀行は以前から収益の 一部は被災時対応出来る様に決めてある。大きな災害起こった際は,その予算が限界に達してしまう。問題の解決策とし てグラミン銀行は半年間返済しなくても良いと決定した。そして、事業を続けるために新たなローンも提供している。本 研究を通じて新たな問題が明らかになったことをグラミン銀行の研究と開発部告している。バングラデシュにおいて多く の非政府組織(NGO)が最貧困層に対してグラミン方式で小規模融資を提供するようになった。初めの頃、借り手が事 業に失敗または安定的収入が得られなった場合、毎週の返済状況が困難になった時、グラミン銀行の行員に返済スケ ジュール変更や新たなローンについて相談することは一般的だった。この頃、同地域でマイクロクレジットローンを提供 している他の機関から小規模融資を受けて両方の返済が上手く出来ず債務者になっているケースも地域によって見られる ようになった。本来は、最貧困層が無担保で小規模融資を受けて生活向上や自立するはずだ。毎週の返済能力を超えて二 重のローンを借りることで返済が出来なくなり、場合によって自分の財産を売って返済をしなければならない状況に陥っ てしまうこともある。何故、最貧困層がこのような状況に直面することになるのだろうか。この研究を通じて明らかに なったことは、マイクロクレジットローンを提供している機関間のネットワークがない為借り手が事業から安定した収入 がなかったり、事業に失敗した時、前に借りたローンの返済のために他機関から新規ローンを受ける時、既に小規模融資 を受けていることをお伝えてない、ローンを提供している機関間のネットワークがないので新規ローンを提供する機関が 把握できない結果、借り手は債務者としてローン地獄に落ちてしまう。今後の検討課題として同地域でグラミン銀行のよ うなマイクロクレジットローンを提供している非政府組織のネットワーク作りが不可欠である。

参考文献

Jamadar, Naseer U, [The Emergence of Credit in Development] Journal of International Development Studies, Vol. 5, 1996, pp.102-122

Yunus, Muhammad. [We Can Put Poverty into Museums], 2006 in Oslo, Norway

Yunus, Muhammad. [Social Business Entrepreneurs Are the Solution, 2006 in Oxford University, United Kingdom.

Yunus, Muhammad, 「Grameen Bank at a Glance」 Dhaka, Bangladesh. 2007

国際開発ジャーナル「国際協力用語集」2004年

アラン・ジュリ「ムハマド・ユヌス自伝: 貧困なき世界めざす銀行家」(猪能弘子訳) 早川書房, 1998年

Yunus, Muhammad. 'Building Social Business' University Press Limited, 2010, Dhaka

Yunus, Muhammad. 'We Can Put Poverty into Museums', 2006 in Oslo, Norway

Yunus, Muhammad. 'Social Business Entrepreneurs Are the Solution', Oxford University, 2006

国連開発計画(編), 吉田秀美(訳)「世界とつながるビジネス」英字出版, 2010年

坪井ひろみ、「グラミン銀行知っていますか」東洋経済新報社、2006年